

<https://www.ibokin.co.jp/>

IBOKIN
ANNUAL REPORT

2024年1月－12月



かなえない未来のために、
目指すべき姿へと歩みつづけています。



1973

兵庫県相生市で金属スクラップの個人事業を生業としてきた高橋勇史が1973年に高橋商店を創業。翌年には規模拡大のため、揖保川金属株式会社を設立して法人化しました。



2013

2013年6月に小型家電リサイクル法に基づく再資源化事業者の認定を受けたことにより、お客様の建物内部にある産業廃棄物はほとんど取り扱うことができるようになりました。



1980

1980年代後半、スクラップディーラーとしての基盤を確立。廃棄物処理業への許認可を取得するとともに、1994年10月には最終処分場を設置して業務を一貫して扱える体制を築きました。



2015

2015年6月、7社包括業務提携を締結。当社が解体を担い、排出されたスクラップや廃棄物は提携先で処理をする協業が可能に。地域の制限を受けず解体工事を受注できるようになりました。



1990

鉄スクラップ価格が大きく下落し、1998年に家電リサイクル法が制定される中、鉄スクラップ依存から脱し、いち早くリサイクルに対応できる体制へのシフトを進めました。



2016

2016年に日之出開発を吸収合併、2017年に国徳工業を子会社化し、2018年8月には東京証券取引所JASDAQ(スタンダード市場)へ上場。解体から最終処分まで自社完結できる体制を強化しました。



2002

2002年10月に開設した龍野工場にスクラップ業務を移し、産業廃棄物処理を本社工場に集約。環境・解体事業を行う総合リサイクル業が始まり、2003年10月には商号をイボキンへ変更しました。



2024

2023年に開発したスローガン「資源の一生に、夢と責任。」と、新たなロゴマークとともに歩み始めて早1年。大阪支店の新設やミツエの子会社化など、新たな取り組みが次々と始まっています。

都市には、役目を終えた多くの宝が眠っている。

建物やプラントをはじめ、機械、自動車、家電など、
高度経済成長期以降の日本が産んだ無数の主役たち。

そんな資源の一生を、ここで終わらせる訳にはいかない。

再び、新たな夢を実現する源として、

さらに価値のある生涯へとバトンをつなげたい。

高いコンプライアンス意識で

解体からリサイクル処理までを責任を持って行い、
次世代の資源として必ず救い出す。

新しい循環型社会をリードする強い覚悟を胸に、

イボキンは、今日も、

サステナブルな世界の実現に貢献します。

資源の一生に、
夢と責任。

「積極考動、堅実経営」で、 永続的な成長、発展を。

私たちの成長と発展は、株主の皆様、お客様、取引先様、従業員、地域の方々、
その他関係者の皆様の信頼とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

さて、創立50周年の節目を経て、次の50年の初年度と位置付けられる2024年
12月期は、イボキンのめざす姿を知っていただくべく、中長期計画を公開して
スタートし、おかげさまで過去最高益を実現することができました。

今期は、首都圏、東北、九州と、受注案件の地域が広がってきたこと、そして、
大型案件が増えてきていることが大きな特徴です。中期経営計画でも掲げました
「解体事業をドライブとした、金属部門、環境部門の連携」により、解体工事の
施工からスクラップ・廃棄物を輸送し、再資源化、処分までワンストップでできる
ことが大きな強みとなっています。

また、それら案件の受注、成果に貢献しているのは何よりも人材です。一人ひとりが、
現場やバックオフィスのスペシャリストであることはもちろん、お客様との良好な信頼
関係を築くことのできる人材開発にも注力していきます。2025年12月期の方針
としては「積極考動、堅実経営」を掲げました。一人ひとりが積極的に考え行動する
ことが、事故災害のない安全な作業、確かな仕事の成果を生み、堅実な経営の
礎となり、成長、発展につながると考えています。イボキンは、これからも、資源の
開発から再資源化まで、資源の一生に夢と責任を持つという思いを抱き、新しい
循環型社会をリードしてまいります。

代表取締役

高橋克実





連携力で、 イボキンの未来を拓く。

〔中期経営計画〕

VALUABLE PROGRESS

独自の強みを活かした成長、発展のため、
解体事業を核として事業の拡大を推進。

イボキングループは、解体事業、環境事業、金属事業の3つを柱として事業を展開しています。3つの事業のなかで、環境事業と金属事業については地場にネットワークを持つ安定基盤として捉える一方、解体事業は、地域性や保有する施設・設備の制限なく全国展開することが可能な「成長エンジン」と位置付けています。近年では、風力発電設備、火力発電所、大規模工場、医療施設など、多数の大規模解体案件を全国規模で施工し実績を積み重ねてまいりました。その傾向は、売上高、営業利益、受注残高の推移にも現れており、着実な成長を遂げています。安全性を最優先に品質管理を徹底することはもちろん、協力会社様とはサステナブルな関係を重視した取引を心掛けています。常に確かな技術、経験を誇るプロフェッショナルなチームを構成し、工事に従事することで、お客様からの継続的なご発注やご紹介という好循環を生み出しています。それら解体事業の全国展開を通じて構築した協力会社様とのネットワークは、環境事業や金属事業の展開にも寄与しており、3事業のシナジー効果を最大限に発揮することでワンストップサービスの強化にもつながっています。あわせて、近年では部門間・支店間が連携することにより、解体事業を核とした広域かつ多様な顧客との取引が拡大しています。

私たちは、個別のサービスを提供するのではなく、お客様の課題解決のためのソリューションを提供するという意識を大切にしています。個別サービスの質の向上はもちろんのこと、全体最適を提案できるソリューション営業を深化させる取り組みを強化してまいります。

また、リサイクルビジネスは、質と量の両方が重要と見え、イボキン

でも規模のメリットを活かしたコスト低減、設備投資、研究開発を通して、より質の高いサービスを提供していきます。世界に目を向けますと、日本企業に比べて格段に規模の大きいリサイクラーが存在します。地球規模の課題である循環型社会の実現には、リサイクラーの成長が不可欠です。当社は、日本を代表するリサイクラーになるという使命感を持って、垂直方向、水平方向の両面で事業領域を拡大し社会に貢献してまいります。

常務執行役員 松原大佑



IBOKIN RECYCLE NETWORK

エリアも技術も、
これまでに超える。

〔中期経営計画〕



VALUABLE PROGRESS

地域性の高い業界構造の中で、
全国規模のネットワークを構築へ。

2024年に大阪支店を開設。

関西圏を広くカバーし受注拡大へ。

関西の中心と言える大阪を拠点に、多様な業界情報に触れつつ、営業先範囲を広げることで関西圏の受注拡大に成功しており、大阪支店社員の増員も予定しています。

地域ごとに異なる産業構造、輸送コスト、処理施設の受け入れ能力等、地域性の高い業界において、地域ごとの協力体制も築きながらネットワークを構築していきます。



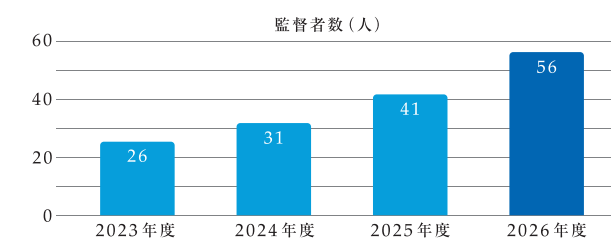
解体事業に高い技術を誇る、
株式会社ミツエを子会社化。

これまで、長く協業してきた「株式会社ミツエ」を2025年1月に子会社化しました。解体事業については、当社の事業成長のドライバーとして位置づけており、播磨エリアにおける解体事業の名門である同社の子会社化は、イボキンの解体施工能力を充実させるとともに、同社が強みとするアスベスト除去事業を当社の事業と連携させることで、ワンストップサービスをさらに拡充させることにつながります。



事業拡大にあわせ、
従業員、資格取得者も増加。

イボキンの解体事業は、解体現場での監督業務を行うことを主たる業務としています。その業務は、安全管理、品質管理、原価管理、物流管理、及び環境管理など工期中に実施する業務のみならず、工事の計画にあたり協力会社様など専門家のチームビルディングなども行っています。この業務にあたる監督者のマンパワーが業績に直結するため、その確保が現中期経営計画のメインテーマの一つと



なっています。2026年度末までに56人の確保を計画していますが、2024年度末時点で31名となっており、順調な進捗となっています。



1 お客様との約束。 資源の一生に、夢と責任。

VALUABLE RESULTS

国内初 風力発電機ブレードの100% リサイクルによる環境問題解決の取り組み

当社は、大規模なウインドファーム（集合型風力発電所）のリプレイス工事等を数多く手がけ、これまでに陸上、洋上合わせて累計約60基以上と、解体工事業界でも全国トップクラスの経験を積んでまいりました。

このたび当社と風力発電関連事業を行うアチハ株式会社は、風力発電機の解体工事で不要になったガラス繊維強化プラスチック（GFRP）製の風力発電機ブレードを国内のセメント工場でセメント再資源化処理を行うことで、トレーサビリティが取れた100%リサイクルに国内で初めて成功いたしました。

今後見込まれる風力発電の飛躍的拡大により、風力発電機のリプレイス、廃止が増加すると想定されますが、本来、自然エネルギーを利用したクリーンな事業であるにもかかわらず、役目を終える際には、ほぼ埋め立て処分が行われ環境負荷をもたらしてしまうという課題が国内外で指摘されています。風力発電の普及に伴って発生する課題の1つに答えを出すことができたことは大変意義のある実証工事だったのではないかと思います。

今後も実績、経験、データに基づいて、風力発電機ブレードのリサイクルを通じて国内の風力発電の普及・拡大に貢献するとともに、脱炭素社会、サーキュラーエコノミーの実現に向け努力してまいります。



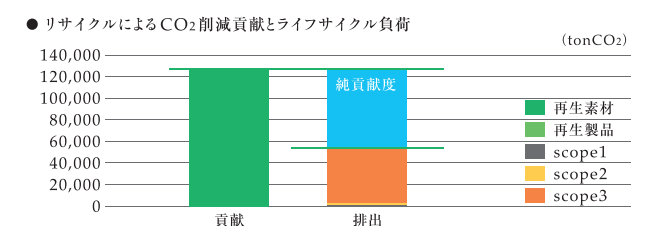
CO₂排出量と環境貢献度の「見える化」への取り組み

世界のカーボンニュートラルに向けた動きが加速するなか、当社は解体・環境・金属事業によって資源循環型社会の実現に向けて、当事業全体のCO₂排出量と環境貢献度の見える化を進めています。2024年度はGHGプロトコル※の算出基準に基づいて、初めてイボキン単体のスコープ1,2,3排出量を計算するためのデータを全スコープ・カテゴリーにわたって抽出し算定しました。都市鉱山から抽出した鉄スクラップに起因するCO₂を、天然資源から鉄を生成した場合と比較し、それを環境貢献度として示しています。当社の2024年度のCO₂排出量は50,128tonCO₂でした。これに対して、再生資源による環境貢献度は128,860tonCO₂でしたので、純貢献度は78,732tonCO₂となりました。今後とも、継続してデータ収集の範囲の拡大と精度の向上を図るとともに、

業務の効率化、事業の高度化に向けて、 さらなるDX化への取組みを推進。

近年、解体現場の高度化が急速に進んでいます。勘と経験頼みの施工ではなく、安全性の証明と評価のために、CADを用いた施工計画が現場の共通言語として機能しています。また、施工時に得られる情報はクラウド上に一元化することで解析が可能となり、積算精度向上による競争力の強化や環境負荷（GHG排出量）の算定に用いることができますので、複合的なDXツール化を目標に社内プロジェクトを進めています。

高度成長期に建てられた建造物の解体需要が高まっている解体事業の分野において、その環境貢献度をお客様にご提示できるサービスを展開し、当社環境方針に則った持続可能な資源の有効活用を通じて社会に貢献することを目指します。



さらなる大型案件の受注にも応えるため、 今季も大型重機を追加導入。

2023年に導入した130トン級の超大型建物解体専用機 (コベルコ製SK1300DLC) は想定を超える高い稼働率で活躍しています。今後、案件の大型化に対応する必要性がますます高まると想定されるため、2023年に導入した1号機を上回る規模と性能の2号機を2025年夏頃に導入予定です。今後も大型案件に対応していくとともに、従業員の安全性向上と現場作業の効率化・生産性の向上に取り組んでまいります。

2 地域・社会とのつながり。 私たちの社会に、夢と責任。

VALUABLE
RESULTS



イボキンの今と未来をご理解いただく ために。個人株主様向け工場見学会開催。

2024年10月19日、株主の方々に当社の事業をより知っていただくとともに、株主の皆様とのコミュニケーションを深めることを目的として「個人株主様向け工場見学会」を開催しました。兵庫県や関西圏のみならず、遠方にお住まいの方からも多数のご応募があり、厳選な抽選により30名の株主様及び同伴者様をお招きし、工場をご見学いただきました。

当日はあいにくの雨でしたが、代表取締役 高橋克実からの挨拶

に始まり、産業廃棄物全般を扱う「本社工場」、金属スクラップや使用済み自動車を扱う「龍野工場」、プラスチックリサイクルを行う「PMR工場」をご覧いただきました。工場の担当者からの説明には皆様大変熱心に耳を傾けられ、その後の質疑応答の時間ではさまざまなご意見やご感想をお伺いしました。株主様向けのイベントは今回が初めての取り組みとなりましたが、多くの皆様からのご応募、ご参加があったことを大変うれしく思っております。

今後も当社への理解を深めていただけるようなイベントを継続的に実施してまいります。

社員一人ひとりが、社会貢献への思いを 託して。能登半島ボランティアを実施

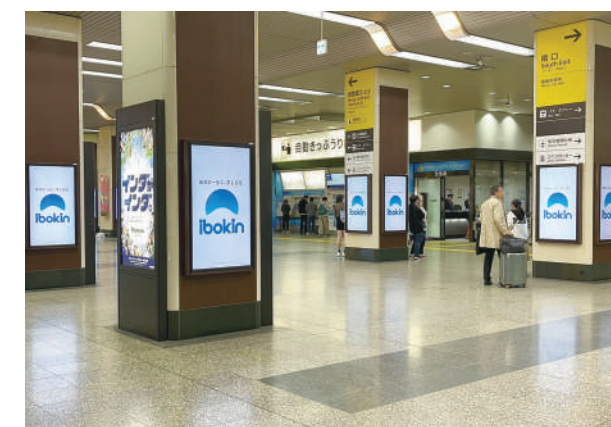
2024年1月に発生した能登半島地震で被災した地域への復興支援活動に、複数回にわたり数十名の社員が参加しました。活動内容は、倒壊した家屋の解体・撤去を中心に、地元産業の復興を目的とした七尾市の「うますぎ一本杉マルシェ」の運営サポートなどです。参加した社員からは「何度もお礼を言っていたが、とても胸が熱くなった」「普段の生活でも困っている人がいたら、手を差し伸べられるような人になりたい」などの声が上がりました。今後も当社は地域の災害支援に注力し、ボランティア活動を続けていきます。



写真提供：NPO法人ユナイテッド・アース

イボキンへの共感、ブランド認知をめざして、 姫路駅での企業広告展開。

JR姫路駅に、企業広告を掲出しています。多くの方が通勤、通学のために行きかう在来線改札内にはサイネージ広告、出張ビジネスマンが目にしやすい新幹線改札付近には広告を掲載しています。「資源の一生に、夢と責任。」を掲げ、新しい循環型社会をリードし、サステナブルな世界の実現に貢献していくイボキンを広く理解いただくことを目指します。



3 イボキンの仲間とともに。 働く仲間たちに、夢と責任。

VALUABLE
RESULTS

高度な技術の習得、スキルアップを 支援する全社技能大会開催

2024年11月2日、オペレーターの技術・技能の向上、そして人材の育成を目的とした「イボキン重機競技大会」を開催しました。若手からベテランまで、各工場のオペレーター総勢25名が参加し、重機のアームで鉄筋をつかんでコースの隙間を通す正確性を競ったり、倒れているカラーコーンを起こして重ねる速さを競ったりと、一人ひとりが全力を尽くして熱戦を展開し、大盛況の大会となりました。

大会を企画するにあたり、安全衛生委員会主導のもと、De-1グランプリ（全国解体オペレーター技能競技大会）のプログラムや安全対策を参考に準備を入念に進め、今回初めての大会開催を無事に実現できました。



解体・リサイクルの現場では、質（安全・丁寧・正確さ）、量（物量・効率・順序）ともに高いレベルの重機の操作技術が求められます。今後も当社ではこのような取り組みを通じて、技術・技能のレベルアップ、継承を行っていき、より質の高いサービスを提供していきます。

社員の交流を通して、さらなる結束を。 社員旅行の実施。

5年ぶりに2024年11月22日～23日の旅程で、島根県へ社員旅行を実施しました。出雲大社では、イボキンのさらなる発展、社員の健康をご祈禱していただきました。宿泊先は玉造温泉。夜には美食に舌鼓を打ちつつ、普段、接点の少ない社員同士ゆっくり話せる機会が持て、ゲーム大会では業務では見られない個性を発揮する社員も多く、お互いを理解しあえる充実の時間となりました。豊かな交流が日々の業務にもさらなる結束を生んでいくものと思います。



働きやすさへの環境整備が評価され、 ひょうご仕事と生活の調和推進企業に認定。

2023年2月に「ひょうご仕事と生活の調和推進企業宣言」を行い、WLB（ワーク・ライフ・バランス）※実現のための当社の取り組みが評価され、2024年3月1日付でひょうご仕事と生活センター様より「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」の認定をいただきました。今後もWLBを実現できるように、社員が働きやすい環境づくりを目的に、認定企業の中でもWLB実現推進の先進企業である表彰企業を目指してまいります。



※WLB（ワークライフバランス）とは…仕事と生活の調和のことを意味し、「仕事へのやりがいや充実感を感じ、責任を果たしながら、その一方で子育てや介護、家庭や地域での生活、自己啓発などといった、個々の私生活も充実させる」という考え方のこと

一つひとつの仕事が、社会につながる、
サステナブルな未来につながる。

VALUE
CREATION

イボキンの価値創造モデル

役目を終えた資源を、新たな夢を実現する源に変える。
次世代の循環型社会をリードする企業であり続ける。

変化の激しい現代ですが、長期的にみると人口動態の変化など明確なトレンドとそれに伴う社会課題があります。イボキンはこの長期的な社会の転換を支えるため、自社がもつ人材や設備等のリソースと外部の特殊技術などのリソースを組み合わせ、お客様へのソリューションを提供し、また社会問題の解決にも貢献して

います。イボキンは解体、環境、金属の3つの事業を併せ持っていますが、お客様のニーズに応じそれぞれの専門家が混成するチームを編成するなどし、柔軟に対応しており、資源循環を担う点で皆同じ「資源の一生に、夢と責任」という思いを共有しています。



解体事業

DISMANTLING
BUSINESS

BUSINESS FIELD DIVISION:1

建築構造物を解体・撤去し、
再生資源として蘇らせる。

取締役専務執行役員
解体事業部長

山崎喜博

多種多様な大型工事が大幅増、品質・安全管理も含め総合的な技術力向上へ。

2024年度の解体事業においては、東北～九州に至る全国の陸上風力発電設備を50基以上解体すると共に、さまざまな工場建屋の解体、プラント設備の解体撤去や大規模な病院の解体に着手するなど、多種多様な大型工事の施工件数が多い年となりました。2023年に導入した超大型重機(SK1300DLC)はフル稼働状態で大活躍しています。このような需要の高まりに対応するために、今後も更に大型の重機を導入する予定であり、高層建造物をより安全に効率よく解体する機械力を高めてまいります。

この度、新たに株式会社ミツエがイボキン・グループに加わりました。同社はイボキンと同じ、たつの市に本拠をおく解体工事施工会社であり、40年の歴史を誇る高度解体技術を有する先輩格の企業です。既存のグループ会社である株式会社国徳工業と併せて、イボキン解体事業グループは70名を越える陣容になりました。イボキン+国徳+ミツエ=IKMが力を結集して一層のシナジーを活かし、複数の案件を同時並行で施工できるグループ体制を礎にして、ますます需要が高まる大型解体工事に挑み、社会のニーズ

にお応えしてまいります。

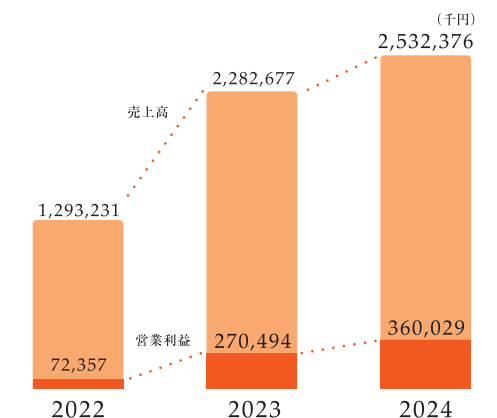
中期経営計画を達成するためには、今後も積極的に陣容を強化すると共に、新しい仲間に対する教育体制をより一層充実させて、施工計画および品質・コスト管理並びに現場における安全・環境管理など総合的に技術力を高めてまいります。

また、脱炭素社会の実現に向けて、解体工事現場毎のCO₂排出量および解体工事で生み出される再生資源による貢献度を公表する準備を進めています。SDGsやCE(サーキュラー・エコノミー)などの言葉が世の中に出現する以前から、当社の環境方針において、イボキンは「都市鉱山開発企業」であることを標榜しています。これは、当社が解体事業と併せて、50年の歴史に裏打ちされた金属事業(鉄・非鉄スクラップ再生)と環境事業(産業廃棄物リサイクル)の3つの事業が有機的に連携することによって実現できる形態であると自負しております。

それぞれの事業が技術力を高め、事業領域を広げることによって、より一層地球に優しい企業へと成長を遂げてまいりたいと思います。

2024年度の経営成績

風力発電所の解体工事や、大規模な工場や医療施設の解体案件が進捗し、増収増益に寄与しました。工事監督者数については、当連結会計年度末時点で31名となりました。これらの結果、売上高は2,532,376千円(前期比10.9%増)、営業利益は360,029千円(同33.1%増)となりました。受注残高については、工事の進行度に応じてすでに売上計上された部分を除き1,665,835千円となりました。



環境事業

ENVIRONMENT BUSINESS

BUSINESS FIELD DIVISION:2

産業廃棄物を選別・加工し、
再生資源として販売する。



執行役員
環境事業部長
村谷厚治

産業構造に合わせた新技術、新サービス導入を視野に「再生資源供給産業」へ。

日本は資源自給率が低く、資源調達においては為替や紛争、世界人口増加など、さまざまな要因による影響や資源の囲い込みなどによるリスクが常に伴っています。一方で老廃した製品などから回収できる都市鉱山による資源回収についてはまだまだ開発の余地があると考えています。そのような状況の中、2024年5月に「資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律」が公布されました。

これにより、従来の廃棄物処理から、さらに温室効果ガスの排出量削減効果が高い資源循環の促進を図るため、国、地方公共団体、廃棄物処分業者、排出事業者それぞれが、高度な措置を講ずる必要があります。従来の取り組みから進歩発展をさせた、「事業形態の高度化」、「分離・回収技術の高度化」、「再資源化工程の高度化」を図っていき「再生資源供給産業」として成長していくことが求められています。

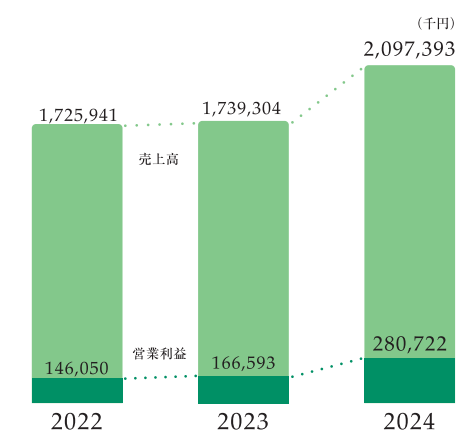
このような市場環境の中、産官学の連携、動脈産業と静脈産業が一体となることが必須であり、サーキュラーエコノミーの市場は

ますます拡大する分野として成長発展が大きく期待できます。

今後、新規事業用地を取得し、既存ビジネスの拡大はもとより、産業構造の変化に合わせた新たな技術導入やサービスの展開も視野に入れており、社会、お客様のニーズにお応えして、より豊かで持続可能な社会づくりにより貢献できるように取り組んで参ります。脱炭素について日本では2050年までにカーボンニュートラルを目指しており、弊社としてまずはCO₂の見える化に取り組んでおります。廃棄物処理やリサイクル原材料調達から製造、廃棄、リサイクルに至るまで一連のサイクル全体でどれだけCO₂が排出されているか、またイボキンの事業によって再生された金属資源が、天然鉱石から製造される資源に置き換わることによるCO₂削減貢献量についても可視化を進めており、今後の改善に繋げて参ります。既存事業及び今後展開する事業については、安全性、生産性をさらに高めるために、IT、AIを活用した機械化を進めて積極的に挑戦してまいります。

2024年度の経営成績

産業廃棄物処理受託の取扱量は19,995トンと軟調でしたが売上高は前年並みとなりました。再生資源販売の取扱量は18,287トンと堅調に推移し、また非鉄金属の相場上昇をうけ売上高は伸長し、増収増益に寄与しました。これらの結果、売上高は2,097,393千円（前期比20.6%増）、営業利益は280,722千円（同68.5%増）となりました。



産業廃棄物やスクラップを収集・運搬する。

運輸部門

TRANSPORTATION SECTION

当社グループの運輸部門は、廃棄物、スクラップを仕入先から回収、及び顧客への納入を担っています。社内に物流機能を有することで、当社工場が工場地域から離れた場所に立地している弱みを補い、さらに、営業能力を併せ持つドライバーを動員していることから、顧客情報の収集など、強力な営業支援機能を有しています。

金属事業

METAL
BUSINESS

BUSINESS FIELD
DIVISION:3

金属スクラップを選別・加工し、
付加価値を高めて出荷する。

取締役常務執行役員
金属事業部長
高橋 守

スクラップの仕入先や物流手段の多様化、製造工程の効率化による事業強化を。

鉄スクラップ相場は世界的に鉄鋼環境が冴えず上値が重い展開が続いています。世界最大の生産国であり消費国である中国において、不動産不況により鉄鋼が過剰供給となり、この過剰分が国外に流れた結果、アジアの一部途上国で鉄鋼生産が増加するほかは、先進国を含め軒並み減産が続いています。

国内でも中国の影響を受けるとともに、建設費の高騰や人手不足などで建設工事の遅延や計画見直しが多くなったため鉄スクラップ需要量が減少し、2024年の国内鉄スクラップ相場は7月中旬から9月下旬にかけて急激に値下がりました。一方で市中スクラップの発生も低調で、足元の需給は概ね均衡した状態が続いており、相場もおおむね落ち着いているようです。

今後の鋼材需要の見通しは、世界鉄鋼協会が2025年に前年比1.2%増と見ているようですが、我々を取り巻く環境は、まだまだ厳しい状況です。

このような環境下にありますが、私達は、新型コロナ禍やロシア・ウクライナ戦争等厳しい情勢下においてスクラップの仕入先や物流手段の多様化、製造工程の効率化を継続してきた結果、

以前とは違う大きな力を付け大きく羽ばたけるようになったように感じます。

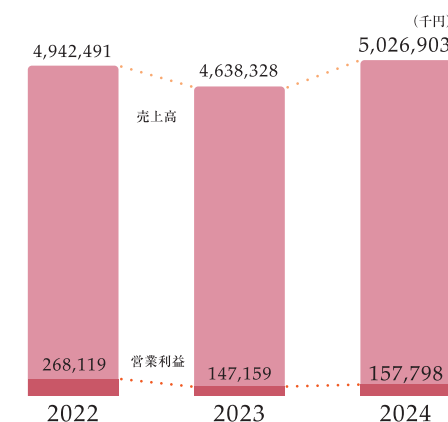
2024年は龍野工場にてロングアームの重機を新しくし、一段とパワーアップした重機へ入れ替えることでさらなる生産性向上を実現しました。

また、大型のスクラップは通常、現地にてトラックに載るサイズまで加工してから陸路で輸送するところを、短期間で搬出したいとのお客様のご要望にお応えするため、そのままの姿で海上輸送し、荷揚げ地にて解体する方法を考案し、特殊船のチャーターやバース確保のため専門業者のチームを作り対応しました。その結果、営業、物流、協力業者のチャンネルを増やすことに繋がりました。また、昨年よりターゲットングして取り組んでいる発電所関連の解体およびスクラップ回収案件も今後、金属事業部として大きな役割を担うことになると考えており、さらに拡充し大きな成果に繋がれるようにしてまいります。

お客様のあらゆるニーズに対応するため、全国の協力業者と共にソリューションの幅を拡げ発展してまいります。

2024年度の経営成績

金属スクラップ取扱量は75,871トン（うち当社工場でのスクラップの取扱量は58,490トン、残りは当社工場を介しない直送取引）となりました。鉄スクラップ相場の期中平均価格が前期を下回る水準となりましたが、非鉄金属相場の伸長や大型解体案件から発生したスクラップの販売が寄与し、増収増益となりました。これらの結果、売上高は5,026,903千円（前期比8.4%増）、営業利益は157,798千円（同7.2%増）となりました。



社長×社員座談会

イボキンの未来を語る。

FUTURE DISCUSSION

2023年2月、ブランディング活動の一環として、イボキンの目指すべき姿を全社的に考えようと開催された「未来ワークショップ」。その中で、未来の事業や働き方について描かれたイラスト「イボキンの未来予想図」には“夢”として描かれた取り組みが、すでに“現実”のものとなりつつあるものが数多くあります。今回は、そんな未来構想の実現状況やイボキンの新たな挑戦、さらなる成長に向けたアイデアについて、現場で活躍する若手メンバーと社長の高橋が本音で語り合いました。

進化するテクノロジーで 夢が現実

高橋(社長) 今日は、このイラストに夢として描かれているものが現実化しつつあることや、まだまだこれは実現したいということを現場での変化も含めて語っていきましょう。その上で、イボキンの成長・発展のためにどんな新しい取り組みが必要か意見を聞かせてください。では早速だけど、例えばこのイラストに描かれている「解体ロボ」なんかは実現してきているよね。



権藤 はい、今まさに取り組んでいるところです。ロボットというと自動で動き回るようなものを想像しがちですが、実際は遠隔操作で解体機器を動かすイメージですね。ゲームのコントローラーのような端末で重機を動かすということが現実化してきており、近い将来、都会のオフィスでスーツを着た女性が遠く離れた現場の建物を解体する、そんな光景も当たり前になってくるかもしれません。解体というと力仕事のイメージがありますが、腕力が問われるような仕事ではなくなり、現場のイメージもクリーンに変わっていくと思いますね。

内田 「解体ロボ」はすごく魅力的です。今、解体に使う重機はバックホーやクレーン



に限られるのですが、ロボットが普及していけば、対応できる解体現場の種類も増えます。実際イボキンでは、人が入ると危険を伴うような場所、狭くて入れない場所なども遠隔操作で手掛けはじめており、より多様なニーズに応えられるようになると思います。
高橋 「ドローン」の活用というのは、かなり進んでいるよね。
権藤 特に「測量用ドローン」は有用性が高いですね。解体現場の地形を測量するのですが精度も高く、現場の把握がしやすくなりました。
高橋 「解体用ドローン」なんかは200kg

まで積載できるものがあるって、人や車が入れない場所での作業や資材運搬ができるとか。もうそんなところまで来ているよ。

権藤 今、受注が急拡大している「風力発電の解体」にドローンって使えるのかな？



内田 風が強いところもあるので、条件次第かなと。今、陸上も洋上も風力発電の解体の案件は増えているので活用は検討中で、実現すれば対応できる案件も増えますね。
矢野 あとスクラップでいうと「AI検収」が製鋼メーカーではすでに導入されています。カメラとAIを活用して、混ざってはいけない禁忌品の検出などがすぐにできる仕組みです。スクラップの素材を早い段階で正確に選別ができていけるほど価値が高いため、積極的に取り入れていきたいです。

社員の働きやすさを 重視した取り組み

高橋 ちょっとと視点を変えて「働く環境」、「ウェルビーイング」という視点だとうだろう？
櫻井 イラストにもあるのですが、会社に「保育園」ができると良いなと思います。子育て世代にとってうれしい取り組みです。
寺脇 最近は小さい子どもさんがいる社員の方も増えていますよね。でも自社で保育園を持つとなるとかなり大きな企業のイメー

FUTURE DISCUSSION

ジがあります。

高橋 地域のいくつかの企業で協力して、共同で保育園を運営するというようなことも検討したいね。



櫻井 あとは社員に長く働き続けてもらうには、リモートワークやフレックスタイムなど、女性ならではの人生設計を踏まえた働き方が大事だと思います。他にも女性だけでなく、AIや自動化が進み夜間に選別が進めば効率化にも繋がるし、柔軟な働き方が実現できるかもしれないですね。

仮屋崎 それはとても良いですね!夜中に選別が終わってれば、朝から出荷が始められるからね。

1,000億円企業、 グローバル企業への道

高橋 売上の夢だと、将来的に1,000億円企業を目指したい。そのためには、グローバルな視点での事業展開も必要になってくるかな。

権藤 製造業など製品を生み出すのは「動脈産業」で、廃棄物を回収して再生・再利用などを行うのは「静脈産業」と言いますが、海外では売上高が数兆円クラスの「静脈メジャー」がありますよね。日本のリサイクル業界ではまだ1,000億円超えの

企業がないので、そこを突破するのが目標です。

高橋 自分の代で1,000億、みんなの代では、さらに! (笑)

権藤 イボキンは自己資本比率も高く安心して働ける反面、同業他社を追い越す速度で成長しなきゃという焦りも感じていますね。

高橋 それは本当に大事。目標が大きければ大きいほど、そのギャップが成長を促すものだと思うよ。社員のみんなには、会社は夢を叶える道具としてどんどん使ってほしいね。一人ひとりの成長が、必ず会社の成長につながるはずだから。

矢野 やはり1,000億を達成するには、リーダー格の社員が拠点や営業所の責任者になっていくのが良いのかなと思って。自分自身も1つの拠点をもちたいですし、名古屋や九州への展開も視野に入れて、拠点長が連携して成長を支え合えるのが理想です。



山崎 解体事業部に私が入社したときは5人の部署だったので、今これだけの大世界帯になっているのを思うと本当にすごいなと驚いています。将来1,000億と考えたときに、組織の規模も今より何倍にもなっていると考えると、より一層チームワーク力を活かして仲間たちと成長していきたいですね。

高橋 そうだね。最近も国徳工業とミツエが一緒になったことで、かなり体制は強固になったので、拠点も人もさらに拡大していきたいな。



チャレンジを後押しする 企業文化

内田 自分は倒壊したアンローダークレーン(船の貨物を陸揚げする設備)の解体のような、ダイナミックな工事に挑戦してみたいですね。元々格闘技をやっていたからか、チャレンジングな現場に魅力を感じます。ただ、現場監督の立場としては、現場のスタッフがいつも安全に健康に働くことを最優先にして、事故のない現場をつくっていくという姿勢を後輩にも伝えていきたいです。

高橋 現場の厳しさを理解して、スタッフを思いやる姿勢は本当に大事。

仮屋崎 ダイナミックな「現場中毒」内田さんの話を聞いていて、どちらかと言うと自分は「飛び込み中毒」の方ですね(笑)。金属営業部で今、新規営業をプロジェクト化したのですが、率先して気合を入れてやってます。あとは県外からの依頼も増えてきているので、ビジネスチャンスを絶対に逃さないようにしたいですね。

権藤 そういう意味では、私は以前、「無人遠隔操作重機のロボット」を借りてきて龍野工場で実験させてもらったことがあって。経験の浅い自分のアイデアを「面白そう」と受け入れてくれた会社の柔軟さには驚きましたし、大きなやりがいを感じました。



高橋 どんどんそんなことをやってほしい。難題に思えることでも大歓迎だし、成功も失敗も関係ない。相当なことをしてもフォローできる体制がイボキンにはあると思うから、安心してチャレンジしてほしい!

知識集約型の 新たなビジネスモデルへ

権藤 社長がおっしゃる“現場付きの商社”というビジョンが気になっていて。それは、どういうビジネスモデルなんでしょう?

高橋 リサイクルを「新しい仕組み」として、そこからフィーを得られるようなビジネスをイメージしている。例えば、全国に何百店舗も持つチェーン店で共通して展示されている製品が不要になった時、一括で回収・リサイクルするシステムを作るようなもの。そうすると「数をこなした対価」というより、その「仕組みを活用した対価」になるよね。要は「労働集約的」なこの仕事を「知識

集約産業」にしたいと思っている。

山崎 なるほど。イボキンは今、ブランディング活動によって徐々に世間に知られる企業になってきました。だからこそ、価格競争に巻き込まれるのではなく、そういった新たな仕組みを世の中に仕掛けていきたいですね。そして、「イボキンだったら信用できる」とお客様に思ってもらえるような付加価値のある仕事をしたいですし、できると思います。自社の価値を正当に評価してもらうためにも、業界では少ない上場企業として社員一人ひとりがもっと自信を持って仕事に向き合うことが大切だと感じます。

櫻井 「知識集約産業」と言えば、ネットワークにも強みのある会社であることを大々的にアピールしていっても良いのかなと思いましたね。先日、とある廃液処分案件の相談をいただいたのですが、他社に紹介しスピーディーに対応できた事例がありました。これはイボキンのノウハウやネットワークがあったからこそ。お客様のお困りごとに寄り添う提案ができるような営業スタイルが確立できたら良いですね。



高橋 本当にそう。営業にいちばん大事なことは、お客様の課題を宿題としてもらうこと。難題であればあるほど期待してもらっている証だから。その、どんな難題にもしっかり応えられるというスタイルができれば今すぐ大きな

売上につながると思います。

寺脇 私は皆さんのように直接売上に関わることはできないのですが、バックオフィスから皆さんが売上を上げられるように支えるのが大事な役割だと思っています。今年は人事評価システムの電子化を検討していたりしますが、その他ちょっとしたことでも、組織全体の働きやすさをもっと向上させたいですね。地道に取り組みを続けていけば、現場の効率も上がり、もっともっといい会社になっていくと思います。これをやりたい、あれをやりたいという声があれば、ぜひ教えてください。



高橋 みんな前向きな意見をありがとう。これからも共に成長していきましょう。今後の活躍を期待しています!

終わりに

未来ワークショップで描いた夢が、現場で現実のものとなりつつある今。目の前の仕事への責任感、新しい事業への意欲など、挑戦を恐れずに未来を見据える社員たちの熱い想いが語られた座談会となりました。イボキンはこれからも、社員一人ひとりの力を原動力に成長を続けます。

財務報告

FINANCIAL
REPORT



会社概要

社 名 株式会社 イボキン
本 社 兵庫県たつの市揖保川町正條379番地
代表者 代表取締役 高橋 克実
設 立 昭和59年
資本金 130百万円
年 商 9,656百万円(2024年12月期)(連結)
従業員 (連結)163名
事業所 本部ビル/本社工場/龍野工場/阪神事業所/東京支店/
大阪支店/福島支店/PMR工場/最終処分場

- 解体工事
プラント解体、風車解体、重量物撤去、
鉄筋コンクリート造解体、鉄骨解体など
- 環境事業
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、
金属くず、ガラスくず等、鉋さい、がれきなど
- 金属事業
金属スクラップや使用済み自動車など

環境方針
当社は、資源の少ない我が国に於いて、都市鉱山開発企業として
最先端の技術力、ノウハウ、安全性を追求し、持続可能な資源の
有効活用を通じて社会に貢献する。当社は、日本の美しい自然環境
を未来に残し、「もったいない」の心を社会に広める事を使命とする。
本方針は一般に公開する。

1. 環境関連の法規制並びにその他の要求事項を徹底遵守する。
2. 解体、分離、選別技術を研鑽し、リサイクル率の向上に努め
廃棄物の製品化による自己完結型のリサイクルを目指す。
3. 製造技術、流通システムを研究開発し、より良いサービスを
広く提供する。
4. 定常業務はもちろん、非常業務及び事故等の緊急時に於いても
汚染予防を徹底する。
5. 本方針遂行のため、環境目標を設定し、必要に応じて見直し、
環境パフォーマンスの向上のため、環境マネジメントシステムの
継続的改善を推進する。
6. 当社環境方針に沿った行動を行うように、全従業員及び当社の
為に働く全ての人に周知する。

工場・事務所



本部ビル
〈管理本部・解体工事部〉

〒671-1631
兵庫県たつの市
揖保川町山津屋140-14

Tel. 0791-72-5088
Fax. 0791-72-7400



本社工場
〈環境事業・運輸部〉

〒671-1621
兵庫県たつの市
揖保川町正條379

Tel. 0791-67-3531
Fax. 0791-67-2639



龍野工場

〒679-4155
兵庫県たつの市
揖保町揖保中198-1

Tel. 0791-67-2525
Fax. 0791-67-2828



阪神事業所

〒660-0095
兵庫県尼崎市
大浜町1-31-1

Tel. 06-6411-3300
Fax. 06-6411-3307



東京支店

〒101-0047
東京都千代田区
内神田2-16-11-304

Tel. 03-3254-2525
Fax. 03-5294-2525



大阪支店

〒532-0003
大阪府大阪市淀川区
宮原3-5-24-720

Tel. 06-6152-7215
Fax. 06-6152-6959



福島支店

〒979-1151
福島県双葉郡富岡町
大字本岡字王塚590-16

Tel. 0240-22-8383



PMR工場
〈PMR部門〉

〒679-4155
兵庫県たつの市
揖保町揖保中341

Tel. 0791-67-0500
Fax. 0791-67-2727



株式会社 国徳工業
〈グループ企業〉

〒590-0984
大阪府堺市堺区
神南辺1-54-1

Tel. 072-225-1707



株式会社 ミツエ
〈グループ企業〉

〒679-4235
兵庫県たつの市
新宮町佐野288

Tel. 0791-75-0708

INFORMATION

数字で見るイボキン

